

「国会質問で現政府執行部を”帝国陸軍”と見立てた質問を
されましたよね？」

平成 29 年 5 月 9 日

●でんきやさんからの質問

ふと思い出したのですが、西田議員さまは国会質問で現政府執行部を”帝国陸（海だったかな？）軍”と見立てた質問をされましたよね。あれはある種、現自民党政府の考えは日本の破滅を目指していることを認める表現だったと解釈してよろしいのでしょうか。と思ってみても先生のこの表現を執行部内閣議員さん等が理解に至る考えをお持ちなのかが問題になってくる気はしますが。

●西田昌司の答え

日本を守るために存在していた帝国陸軍は、かつて自らが決定した方針の誤りに気付いてもそれを勇気をもって撤回することができずに一気に突き進んでしまったがために、結果的に日本を破滅に追いやってしまいました。私は 3 月 1 日の予算委員会において、PB（プライマリーバランス）黒字化に固執する財務官僚を「帝国陸軍」に見立てて彼らを批判しました。

ナチス・ドイツを叩き潰したかったアメリカは、まずは日本を挑発して、日本が挑発に乗ってきたら日本を叩くと同時にナチス・ドイツをも叩こうと策略し、日本はアメリカの挑発に乗せられて戦争を始めてしまいました。日本はアメリカの策略にまんまとはめられてしまった感がありますが、対米開戦を決意したのは帝国陸軍でした。帝国陸軍は中国大陸や南方に進出して資源の確保に努めたりしましたが、事のはじめから無謀な戦争であることは見えていましたし、戦争が始まってしまうと次第に勝ち目がないことが誰の目にも明らかになってきました。

しかし戦争を始めてしまった手前、帝国陸軍は自らの過ちを認めて軌道修正することもできず、誰かが過ちを指摘したとしてもそれが責任問題に発展してしまうとなるとそういった声はかき消されてしまいます。それまでに多大な命を犠牲にしてしまっているのに引き返すわけにもいかず、誰もがおかしいと思いつつも前に進むより他ないという状況になってしまいました。昭和天皇はこういった状況に心を痛められて、最後はご自身を犠牲にすることも厭わずにポツダム宣言受諾の御聖断を下され、終戦を迎えました。

PB 黒字化の必要性はかつての大蔵省（現財務省）が訴えて、財務省は今でも PB 黒字化に必死になっています。PB を黒字化すれば財政再建ができると勘違いされて、政府支出を抑えたり消費税を増税したりといった誤った政策がされ続けてきましたが、デフレ下では財政再建はできませんし、まずはデフレから脱却して経済を成長させる路線に転換しなければなりません。しかし、財務省は財政規律を重んじるがゆえに短期的な政府の赤字をも許容せず、PB 黒字化を金科玉条としてしまっているのです。政府が大規模な景気対策を行わないとなると、経済が良くならずにデフレ脱却も叶わないのは当然です。

いろいろな省庁の役人と話すと、誰もが PB 黒字化目標の愚かさに気付いています。しかし、肝心の財務省の役人だけが PB 黒字化目標の看板を絶対に下ろさないのです。彼らは高学歴で頭が非常に良いはずですし、内心は PB 黒字化の愚かさなど薄々は気付いているはずですが、財政規律を重んじるのが彼らの職業倫理となると、間違った看板を下ろすことができないのでしょう。プライドが邪魔をして誤りを素直に認められないのがインテリの悲しいところです。だから私は「お前たちは帝国陸軍か！」と彼らを強く叱責するのです。

財務省の役人だけでなく、一部の経済学者やマスコミも PB 黒字化という目標に縛られており、それが誤った政策の元となっているのですが、この 20 年のデフレ不況の現実を直視すれば自らの誤りにも気付くはずですが。彼らには、自らの誤りを素直に認めるという潔さを持っていただきたいと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>